



兒 る ぬ い

譯 生 蓬 孤 作 侯 ん あ れ る お

うまし子や  
汝が口を  
いをいわよ  
この母の  
いとほしの  
われに來ぬ  
われはたゞ  
汝をたゞ  
手はたれて  
眼をもちて  
この頬に  
人いはむ  
さめよ子よ  
さめよ、さめて  
たししばし  
たとへ汝が  
あなうれし  
のどかなる  
されどあはれ  
子のすがた

汝が父君に  
今しあてたる  
あはれ幼子  
胸にしひたと  
幼なき友よ  
うまき「眠睡」は  
汝をみまもり  
ひとりまもるぞ  
小さき額に  
はしき子はぬる  
林檎のごとき  
「死」の冷た手に  
われ驚きに  
うとまし  
目のみひかりに  
みにかふるとも  
眠れるなりき  
夢よ來りて  
如何に泣くも  
君はし我と

さもよく似てし。  
胸にいをねよ。  
ねむけのまぶた。  
静かにつけて。  
汝がやさし眼に。  
そと音づるゝ。  
かばひ育む。  
我はしれうき。  
「眠睡」はやどる。  
悪夢のみで。  
くれないなくば。  
いぬるにもやと。  
慄へわなく。  
思うち振ひてよ。  
眼をひらきてよ。  
胸しづめてより。  
我は内つく。  
いゝるまをすかせ。  
眼さめほゝえず。  
見んときなしや。

第七卷第五號

糸